

金地螺鈿毛抜型太刀

金地螺鈿毛抜型太刀は国宝であり、春日大社で最も重要で大切にされている神聖な宝の 1 つです。常時、一般公開はされていません。

平安時代(794-1185)に作られた完全な形で残っている日本に 3 振のみ残されている刀のうちの 1 振です。その型は、侍が伝統的に使用してきた刀という、日本の長剣の原型だと考えられています。

この特別な刀は神聖な工芸品として作られ、春日大社に奉納されたもので、戦闘で使用するのが目的ではありませんでした。柄、つば、さやの金属部分は純度の高い金で作られており、この貴重な宝物を奉納した者の信仰を表しています。また、さやの特徴として、竹林で雀を追う猫を描いた螺鈿細工があります。